

平成28年4月1日

文化庁 国立近現代建築資料館 企画展示について

文化庁は、平成24年11月に設置した国立近現代建築資料館において、我が国の近現代における著名な建築・建築家の建築資料に関する、収集、保管、展示、調査研究等の事業を行っています。

このたび、我が国の近現代建築資料が持つ文化的・芸術的・学術的価値を広く発信する取り組みとして、企画展示「資料にみる近代建築の歩み」を開催しますのでお知らせします。

【開催概要】

- ・ **名 称**：資料にみる近代建築の歩み
- ・ **会 期**：平成28年5月14日（土）～平成28年7月31日（日）
- ・ **会 場**：文化庁国立近現代建築資料館
（東京都文京区湯島4－6－15 湯島地方合同庁舎内）
- ・ **開館時間**：10：00～16：30
- ・ **休 館 日**：会期中無休
- ・ **主 催**：文化庁
- ・ **共 催**：公益財団法人竹中大工道具館
- ・ **協 力**：株式会社大林組、鹿島建設株式会社、清水建設株式会社、大成建設株式会社、株式会社竹中工務店、公益財団法人東京都公園協会

【展覧会のみどころ】

明治、大正、昭和。日本が大きく変わった時代。建築も西洋からもたらされる新しい技術でつくることが求められました。建築家や技術者たちはそれに果敢に挑戦し、短期間のうちに習得して、近代化を成功させます。そして第二次世界大戦後は、世界に通用する建築を生み出していきます。その過程でどのような技術革新があり、それがどのように建築を変えていったのでしょうか。

本展では、資料が伝える建築文化に焦点を当て、その礎を作った日本人建築家も紹介しながら、図面や模型、写真、映像記録、材料など様々な建築資料を用いて紹介いたします。

・ 第1章 建築の文明開化 ― 棟梁とお雇い外国人の活躍

文明開化により新たな時代を迎えた日本。西洋建築の導入により、建築のあり方が大きく変わり始めます。進取の精神をもった棟梁たちのチャレンジの姿を、わずかに残る資料を通して、

ものづくりの視点から具体的に紹介します。

・ 第2章 歴史主義との格闘 ― 建築家と請負業の登場

本格的な西洋建築を日本人自身でつくろうと建築家教育が始まります。また新たな建築に合わせて新材料の生産や大規模工事を請け負う近代的な建設会社が勃興し始めます。その変化を美しく彩色された図面や各社創業史料をもとに紹介します。

・ 第3章 鉄とコンクリート ― 技術革新が建築を変える

明治の末から建築の作り方を根底から覆す鉄の技術が日本の建築界を襲います。鉄骨造と鉄筋コンクリート造という二大技術革新を、鉄骨部材や配筋模型などの実物資料に、豊富な写真を加えて紹介します。

・ 第4章 新たな時代へ ― 戦後復興を超えて

第二次世界大戦後、戦前に培った技術に支えられ、より高く、より大きく日本の建築は飛躍していきます。その挑戦を図面や模型、建設会社に残された貴重な記録映像を通して紹介します。

【関連イベント】

・ 講演会：ものづくりの近代建築史

近代建築というと、建築家の活躍やさまざまな様式・表現の移り変りなどに目を奪われがちですが、それを支えていたのがさまざまな技術です。材料・構造・施工法などの革新が、建築にどのような変革をもたらしたのか。建築学者の内田祥哉氏と建築史家の藤森照信氏をお招きし、近代建築をものづくりという視点から語っていただきます。

日 時＝平成28年6月12日（日）13：30～16：00

会 場＝東京大学弥生講堂

講 師＝内田祥哉（東京大学名誉教授）、藤森照信（東京大学名誉教授）

定 員＝当日先着300名（申込不要、参加費無料）

・ 見学会1：近代建築の名作を巡る ～保存と活用の現在～

東京におけるオフィス街（丸の内/日本橋）の近代建築は立地の良さから、その多くが建て替えられてきました。その中で意匠の素晴らしさや歴史的価値が認められ、保存再生工事を経て今日まで大事に残されているオフィスビルがあります。その代表作2点を建設会社の工事担当者の解説で巡ります。

日 時＝平成28年5月21日（土）13：30～15：00、15：30～16：30

見学先＝明治屋京橋ビル（東京都中央区京橋、レクチャーと外観見学）

明治生命館（東京都千代田区丸の内、公開エリアのみの見学）

定 員＝３０名（申込制（応募者多数の場合は抽選），参加費無料）

締 切＝平成２８年４月３０日

・ 見学会２：ものづくりの最先端を知る～清水建設技術研究所ガイドツアー～

建築技術の開発は現代でも盛んに続けられ，私たちの生活を支えています，それがいかに役立っているかはなかなか気づきにくいものです。そこで建設会社の中で最先端の研究を行っている技術研究所の設備をガイド付きツアーで御案内いたします。中高生向けコースも御用意しておりますので，夏休みの自由研究に是非御利用ください。

日 時＝平成２８年７月２６日（火）

①中高生向け １０：００～１１：３０

②一般向け １３：３０～１５：００

見学先＝清水建設技術研究所（東京都江東区越中島３丁目４-１７）

定 員＝各回３０名（申込制（応募者多数の場合は抽選），参加費無料）

締 切＝平成２８年７月５日

・ 上映会：建設映像が語るもの

建築資料において，建設映像も建築文化を伝える上で大変重要な資料と言えます。上映会では，東京カテドラル聖マリア大聖堂（昭和３９年竣工），霞が関ビルディング（昭和４３年竣工），日本万国博覧会お祭り広場大屋根（昭和４５年竣工）の建設時の貴重な映像を各回一作品御鑑賞いただくとともに，プロジェクトに関わった方等ゲストを招いてお話を伺います。

日 時＝未定（３回予定）

会 場＝国立近現代建築資料館

出 演＝未定

定 員＝各回当日先着２５名（無料・申込不要）

※ テーマ，登壇者は変更されることがあります。

申込方法等の詳細については，国立近現代建築資料館のホームページで御案内いたします。

＜担当＞ 文化庁長官官房政策課

課長 佐藤 安紀（内線 2803）

課長補佐 土居 孝一（内線 2804）

資料館係長 鳥居 省司

電話：03－5253－4111（代表）

03－3812－3401（資料館係直通）

文化庁 国立近現代建築資料館

企画展示「資料にみる近代建築の歩み」

プレス向け展示説明会・取材申込書

報道関係の皆様を対象に、次の日程で展示説明会を開催します。

平成28年5月13日（金） 13：30～14：30

参加御希望の方は、下記に御記入の上、5月12日（木）15：00までに

FAX 03-3812-3407へ御返信ください。

	会社名・所属	御氏名
1		
2		
3		

（取材要領）

- 湯島地方合同庁舎の正門から御入構ください。一般駐車場は駐車台数が限られますので、できるだけ公共交通機関を御利用ください。
- 13：00から、合同庁舎本館の玄関ホールにおいて受付を行います。
資料室では、13：30より展示品等の説明を開始いたします。
- 社名が記載された腕章を御着用ください。
- 会場での写真撮影は、展示品保護・管理のため、ストロボの使用や接写撮影は御遠慮ください。また、撮影禁止マークのついている展示物の撮影は御遠慮ください。
- 取材に当たっては職員の指示に従ってください。

（問合せ先） 文化庁国立近現代建築資料館 鳥居，三橋

電 話03-3812-3401／ FAX03-3812-3407

【広報用図版】



広報用画像 1

三井本館解体工事現場写真。技術者と職人が記念撮影
大正 15 年（1926） 三井文庫蔵



広報用画像 2

錦絵『東京名所 海運橋五階造真図』
一曜斎国輝筆，明治 5 年（1972） 清水建設蔵



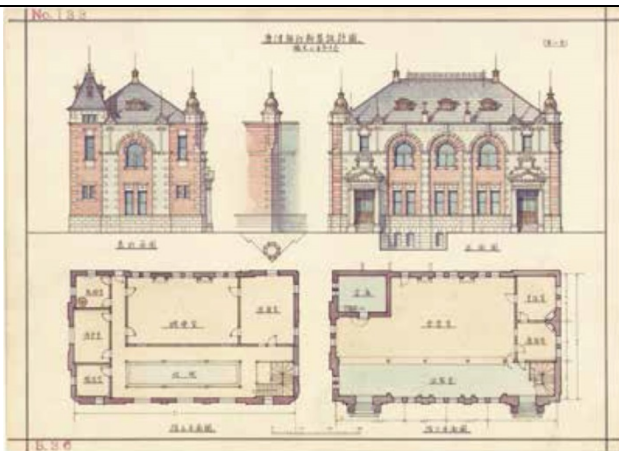
広報用画像 3

為替バンク三井組柱頭
明治 7 年（1874） 清水建設蔵



広報用画像 4

第一国立銀行鑄造模型
昭和 5 年（1930） 清水建設蔵



広報用画像 5

清水組彩色図
明治 38 年（1905）～大正 12 年（1923） 清水建設蔵



広報用画像 6

第一銀行京都支店 化粧煉瓦
明治 39 年（1906） 舞鶴市立赤れんが博物館蔵



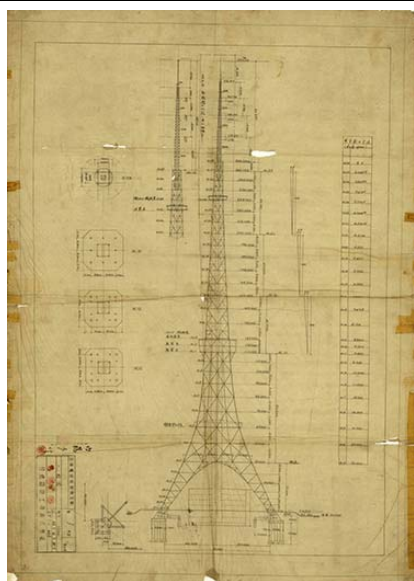
広報用画像 7

三越本店本館鉄骨柱脚
大正 3 年（1914） 清水建設蔵



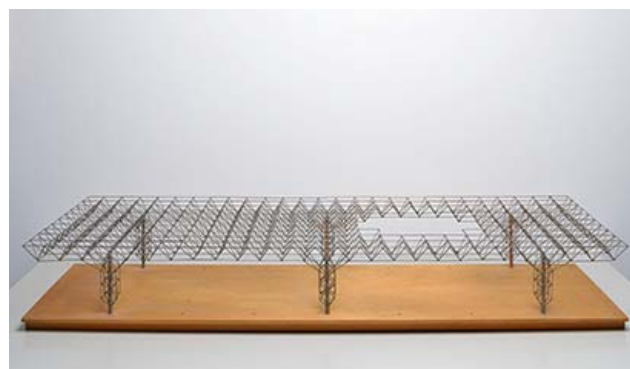
広報用画像 8

枢密院配筋模型
大正 10 年（1921） 京都大学蔵



広報用画像 9

日本電波塔新築工事 1 号図 一般図
昭和 33 年（1958） 日建設計蔵
Licensed by TOKYO TOWER



広報用画像 10

日本万国博覧会お祭り広場大屋根模型
昭和 45 年（1970） 川口衛構造設計事務所蔵

広報用図版を御入り用の方は、政策課資料館係（国立近現代建築資料館）まで御連絡ください。



三井本館解体工事現場。技術者と職人が記念撮影（大正15年、三井文庫蔵）

2016.5.14 sat - 7.31 sun

資料にみる 近代建築の歩み

The Development of Modern Architecture in Japan as Seen in Historical Documents

文化庁

国立近代建築資料館

National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs

開館時間 Open hours 10:00~16:30 会期中無休 Open throughout the exhibition period

資料にみる近代建築の歩み

The Development of Modern Architecture in Japan as Seen in Historical Documents

明治、大正、昭和。日本が大きく変わった時代。建築も西洋からもたらされる新しい技術でつくることが求められました。建築家や技術者たちはそれに果敢に挑戦し、短期間のうちに習得して、近代化を成功させます。そして第二次世界大戦後は、世界に通用する建築を生み出していきます。その過程でどのような技術革新があり、それがどのように建築を変えていったのでしょうか。

本展では建設会社や大学等に残された貴重な資料を通して、その歩みを振り返ります。

第1章 建築の文明開化 棟梁とお雇い外国人の活躍

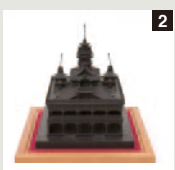
第2章 歴史主義との格闘 建築家と請負業の登場

第3章 鉄とコンクリート 技術革新が建築を変える

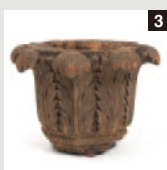
第4章 新たな時代へ 戦後復興を越えて



1



2



3



4



5

①枢密院配筋模型(大正10年、京都大学蔵) ②第一国立銀行鑄造模型(昭和5年、清水建設蔵) ③為替バンク三井組柱頭(明治7年、清水建設蔵) ④清水組彩色図(明治38年~大正12年、清水建設蔵) ⑤日本電波塔新築工事一般図(昭和33年、日建設計蔵)

The Meiji, Taisho, and Showa periods were times of great change in Japan. Architecture, too, was pressed to embrace construction techniques introduced from the West. The architects and engineers who resolutely took on this challenge quickly absorbed the new techniques and managed to successfully carry out the modernization of Japan's architecture. They then went on to create world-class works of architecture after World War II. In what ways did technical innovation take place in this process, and how did these changes reshape architecture in Japan? This exhibition sheds light on these questions by tracing the development of Japanese architecture through a presentation of precious historical materials preserved by various construction companies and universities.

Part I. The Westernization of Architecture

The Achievements of the Toryo and Foreign Advisors

Part II. The Struggle to Emulate Western Historicism

The Emergence of the Architect and Contract Work

Part III. Steel and Concrete

Architecture Reshaped by Technological Innovation

Part IV. A New Age

After Postwar Reconstruction

イベント

※イベント内容や申し込み方法等の詳細は、当館ホームページをご覧ください。(http://nama.bunka.go.jp/)

講演会 ものづくりの近代建築史

〔日時〕2016年6月12日(日) 13:30~16:00
〔場所〕東京大学弥生講堂
(東京都文京区弥生1-1-1)
〔講師〕内田祥哉(東京大学名誉教授)
藤森照信(東京大学名誉教授)
〔定員〕当日先着300名(申込不要・参加費無料)

見学会1 近代建築の名作を巡る ~保存と活用の現在~

〔日 時〕2016年5月21日(土) 13:30~16:30
〔見学先〕明治屋敷橋ビル(東京都中央区京橋、
レクチャーと外観見学)
明治生命館(東京都千代田区丸の内、
公開エリアのみの見学)
〔定 員〕30名(参加費無料、応募者多数の場合は
抽選、申込締切:4月30日)

見学会2 ものづくりの最先端を知る ~清水建設技術研究所ガイドツアー~

〔日 時〕2016年7月26日(火)
①中高生向け 10:30~12:00
②一般向け 13:30~15:00
〔見学先〕清水建設技術研究所
(東京都江東区越中島3丁目4-17)
〔定 員〕各回30名(参加費無料、応募者多数
の場合は抽選、申込締切:7月5日)

上映会 建設映像が語るもの

〔日時〕未定(3回予定)
〔定員〕各回25名
(当日先着順・申込不要・参加費無料)

会場

文化庁 国立近現代建築資料館
〒113-8553 東京都文京区湯島4-6-15
Tel:03-3812-3401 Fax:03-3812-3407
http://nama.bunka.go.jp/

アクセス

千代田線「湯島」1番出口より徒歩3分

入館方法

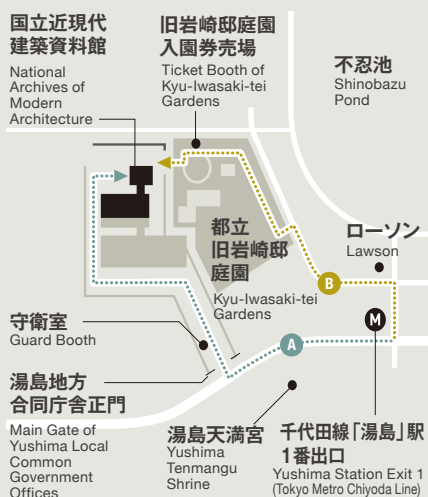
国立近現代建築資料館への入場方法は2つあります。

A 展示会のみ観覧 (平日のみ利用可)

湯島地方合同庁舎正門よりご入館ください。入館料無料。
都立旧岩崎邸庭園には入場できません。

B 都立旧岩崎邸庭園と同時観覧

都立旧岩崎邸庭園よりご入館ください。
旧岩崎邸庭園入園料(一般400円)が必要となります。



Venue

National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs
4-6-15 Yushima, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8553, Japan

Directions

3-min. walk from Exit 1 of Yushima Station (Tokyo Metro Chiyoda Line)

Entry

There are two ways to enter the National Archives of Modern Architecture.

A To view the exhibition only (open on weekdays only)

Please enter from the main gate of the Yushima Local Common Government Offices. Admission is free. Visitors are not allowed entry into the Tokyo Metropolitan Kyu-Iwasaki-tei Gardens.

B To view both the exhibition and Kyu-Iwasaki-tei Gardens

The National Archives of Modern Architecture may be entered from the Kyu-Iwasaki-tei Gardens. (admission 400 yen)